

学習構想案作成のポイント（本時）

Q&A

Q 「めあて」と「学習課題」とは何か。

A 「めあて」は、目標やねらいを子供たちと共有できるように示すものです。「学習課題」は、目標の達成に向けて子供たちが解決する課題として示すものです。（※推進プランP30参照）
教科によっては、「めあて」の中に「○○は必要なのかについて考えよう」のように、課題を含めた設定も見受けられます。

Q めあてと学習課題は必ず両方書かなければならないか。

A 必ず両方書かなければならないというわけではありません。大切なのは、子供たちが、目的意識や意欲を持って主体的に学習に取り組めるようにすることです。そのためには、板書等で明示することは一つの手立てとなります。
「めあて」や「学習課題」の名称についても教科等の特質に応じて「ねらい」「活動目標」「Today's Goal」などにされても構いません。
何のために設定するのかを校内研究などで協議し、校内で共通理解のうえ、児童生徒の実態に応じて工夫・改善を重ねていきましょう。

Q 新たに「発問」などの項目を追加してもよいか。

A 本様式はあくまで推奨モデルです。大切にしたい3項目以外で、校内研究などで議論され、必要であれば追加されて構いません。

Q まとめ・振り返りは必ず毎時間位置付けるべきか。

A 必ず毎時間位置付けるものではなく、必要に応じて位置付けるようにします。

4 本時の学習

(1)目標 推薦カードにまとめるために、太一の様子の描写について着目し、瀬の主を殺したい気持ちから、海のいのちを大切にすることに変わった太一の子心の移り変わりを読むことができる。

(2)展開

過程	時間	学習活動 (◇予想される児童の発言)	指導上の留意事項 (学習活動の目的・意図、内容、方法等)
導入	5分	1 課題をつかむ。 ①表現の工夫の意図など、これまでの作者の書きぶりを振り返る。 ◇これまででは色彩描写により登場人物の様子を詳しく表す書きぶりを学習したな。	○単元のゴールを確かめ、単元計画からめあてを設定する。
		【めあて】 太一の様子を表した描写から、太一の子心の移り変わりを読もう。 ◎作者の書きぶりについて問いをもつ。 ◇どうして、ここだけに太一の表情が書かれているのだろう。	(「問い」を生み出す手立て等) ○山場の場面の太一の描写について、挿絵を基にどのような表情なのかを問う。
展開	30分	【学習課題】 太一の表情の変化によって、太一の子心はどのように移り変わったのだろう。	(見方・考え方を働かせて課題解決に向かう方向付け) ○「泣きそう」「ふっとほほえみ」「えがおを作った」の言葉の理解について、近隣の児童同士で確認する。
		2 課題の解決に向けて活動する。 ①自身の考えをもつ。 ◇表情が「泣きそう」から「えがお」に変わっているから、最後は心情が変わっているようだ。 ②他者との対話により、考えをまとめる。 ◇「ふっと」という言葉から、自然に生み出された感じがする。だから、きっと太一は、ここで「海の命」を守ることに本当に気付くことができたと思う。 ◇「作った」ということは、さっきの「ふっと」とは違って、自分でしたということを表していると思う。	(課題解決に向けた見通しを持つ手立て) ○「泣きそう」「ふっとほほえみ」「えがおを作った」の言葉を取り出し、それぞれにどのような心情が表されているかについて自分の考えを書くようにし、移り変わりを捉えやすくする。
終末	10分	【期待される学びの姿】 太一の表情の描写に着目し、表情の変化に沿って、海のいのちを大切にしようとして移り変わる心情を想像している。	【具体的評価規準】 思① ○太一自身の描写から、太一の子心の移り変わりを捉えている。 (方法：ノート・発言)
		3 学習課題に対する答えをまとめ、めあてに対する振り返りをする。 【まとめ】 太一の子心は、瀬の主を殺し、父の敵を討ちたい気持ちから、(瀬の主の姿を見て) 海のいのちを大切にしようとする気持ちに変わった。 ◇今日も作者の工夫した書きぶりから、作者が考えをもって工夫していることがよく分かった。物語の表現の工夫についても着目して、ほかの作品も読んでみたい。	○めあてや課題と照らして行い、課題解決の方法や学習内容をまとめる。 ○本時の学びの成果や課題とその要因、課題の改善方法等を共有する。 ○自らの学びを調整したり、新たな問いを設定したりするなど、振り返りを具体的に言う。

★「熊本の学び」における授業づくりのポイントからのチェック

- 子供の「なぜ」「おそらく」が生まれる導入の工夫はありますか
- 子供の「やってみよう」「なるほど」「きっと」が生まれる展開の工夫はありますか
- 子供の「分かった」「できた」「もっとやってみよう」が生まれる終末の工夫はありますか
- 【期待される学びの姿】には、本時の中心となる学習活動で学びの深まりを想定し、具体的に設定されていますか

★これまでも大切にされてきた授業づくりのポイントからのチェック

- 「本時の目標」「めあて」「具体的評価規準」の整合性は図られていますか

小学校国語の例

目標→心情の移り変わりを読むこと
 めあて→心情の移り変わりを読もう
 学習課題→どのように移り変わったのか
 具体的評価規準→心情の移り変わりを捉えている
 まとめ→「敵を討ちたいから、いのちを大切にしように変わった」
 振り返り→心情の移り変わりを読むための学習活動を振り返る

- めあてや学習課題は、子供たちの主体的に学ぶに向かう姿を引き出すものとなっていますか

- 「具体的評価規準」は、評価する場面を適切に設定されていますか

- ※「まとめ」「振り返り」の場が設定された場合
- 「めあて」や「学習課題」に対応した「まとめ」となっていますか
- 何をどのようにふりかえるのか、ねらいをもった「振り返り」となっていますか